

2017年度 公益社団法人 水沢青年会議所 【 理事長所信 】

理事長 阿 部 由起男

【はじめに】

「出来るか出来ないかではない、やるかやらないか。」人は得てして、目の前に立ちほだかる高い壁に躊躇し乗り越えようとする勇気も持たず、出来ない理由を探してしまいます。そういう私も、2006年の入会当時はその一人でした。青年会議所の活動もよく分からず、高い志を持って入会したわけでもありません。ただ大変そうだなと思いながら、「時間がない」「やったことが無いから分からない」と、「出来ない」理由というよりも、「やらない」理由を探していました。そのような中で、「まずはやってみろ。」と、よく先輩方に言われたものです。言うことは簡単じゃないかと思いつつも、反発する私の心を和らげてくれたのは、11人の同期の存在でした。それ以降、様々な役職を頂き、いろいろな方々と出会い、いろいろな人から影響を受け、仕事や家庭とはまた違った世界を経験し、人としての視野が大きく広がり、前向きな考えも持てるようになり、少しずつではありますが、困難なことにも向かって行けるようになりました。さらに、自分自身を大きく突き動かす起点となったのは2011年でありました。岩手ブロック会員大会を水沢で主管する年であり、私は会員大会の委員長として出向しておりました。準備を進めていた中で東日本大震災。JCの活動は全て震災の支援活動に変わり、会員大会も一時中止の判断となりました。しかし、幾度となく議論が重ねられ、このような困難な時であり、大切なものが失われた状況だからこそ、私たちは立ち止まることなく行動しようと、再度開催の判断が成されました。震災後に岩手県内13青年会議所のメンバーが一堂に会し、心が一つになる瞬間に出会えたことで、心からやって良かったと思えました。今にして思うのは、入会当時に無責任にさえ感じた先輩の一言は、青年会議所での様々な経験とその自信から、自分の背中を押すために伝えてくれた意味ある言葉だったのだということです。今の自分に何が出来るかを考え、もっと何か人の役に立ちたいと強く思える自分がそこに芽生え、それこそが一人のJCメンバー＝JAYCEEとしてのあるべき姿だと確信しました。一つひとつの機会や出会いで、大きく自分の世界は変わるものだと実感しております。現状に満足している人にとっては、JCでの活動は無意味にさえ感じ、必要とされないのかもしれませんが。現状は現状でしかなく、そこから新しい自分に出会うことはありません。「ひとは人によって磨かれる」とあるように、一つひとつの機会に感謝しながら自ら率先して行動し、前向きに取り組むことから自身が磨かれ、大きく成長することが出来るのではないのでしょうか。青年会議所は、何をやったかではなく、多くの人にどんな良い影響を生み出すことが出来たのが重要であり、自己の満足や失敗したことを想像する前に、果敢にいろいろな物事にチャレンジし、成功するイメージを創造することから始まるものと考えます。

【スローガン】

熱く強くたぎらせろ！

～情熱・結束・考動～ まちを輝かせるのは俺たちだ！

【基本理念】

熱い情熱が原動力となり、強い結束が連帯感を生み、
若さをたぎらせ考動し、一人ひとりの覚悟が、
輝くまちを創出する

2017年度は水沢青年会議所にとって、77年に一度しかないとも言われる東北青年フォーラムの主管を始めとする千載一遇のチャンスが目の前にあり、今まで以上に会員一人ひとりの力が必要とされ、そして試される大きなチャレンジの年です。私たちは、その当事者としてチャンスを自らが引き寄せ、その恵まれたチャンスを活かしていかなければなりません。大きなものを成し遂げるには、まずそこに熱い想いが無ければ、誰の協力も共感すら得られません。【情熱】は人や環境に左右されず、自らの心の中で燃やし続けることの出来る原動力であり、誰もが生み出せる力であると言えます。私たちが情熱を持って行動し続けていけば、その情熱は周りの人にきっと伝わり、伝わった情熱はまた他の人を動かします。さらに、皆の力を合わせる強い【結束】が連帯感を育み、計り知れないエネルギーを生み出していくのです。目の前にある一つひとつの物事の本質をよく考え、創意と工夫を重ね、可能性を見出す若さ溢れる前向きな【考動】によって自身の壁を乗り越えた先に、明日への道は切り拓かれます。私たちが成すべきことを見据え「やってやるぞ！」という強い感情から若さをたぎらせ考動することは、まだ見ぬ自分自身の可能性を見出すことに繋がります。新たな未来への可能性は、自分自身の心の中にあるものと信じます。愛するまちを私たちが一丸となって、熱く強く光り輝かせて行こうではありませんか。

【基本方針】

- ・ 会員拡大の推進から組織力の強化
- ・ 地域益を追求する東北青年フォーラムの主管
- ・ 未来ビジョンの創造からまちの活性化
- ・ 未来のまちを輝かせる青少年の育成事業
- ・ 地域に愛され続ける奥州インディアン旗野球大会の開催
- ・ 創始の精神を基軸に伝統を未来へ繋ぐ
- ・ 情報発信の進化と推進
- ・ 社会的責任ある運営の継続

・会員拡大の推進から組織力の強化

「明るい豊かな社会の実現」を運動の根幹とする私たちは、私たち自身が住み暮らすこのまちの未来を牽引する当事者意識を持つことが、まずは必要と考えます。会員の自己への投資により運営される青年会議所においては、会員の資質や会員数の充実は組織力の拡大に繋がり、年間を通じて盤石な運営をしていくためにも、組織力を高めていくことが重要であります。会員一人ひとりが役割を認識し、そして皆の下支えがあるからこそ、青年会議所の活動がより活発に機能していくものと考えます。「企業は人なり」という言葉もあるとおり、この組織においても魅力ある J A Y C E E が、魅力ある組織を作ります。しかしここ数年、全国的に会員数の減少が非常に深刻な問題をもたらしており、当会議所も例外ではありません。会員数の減少には若手後継者の減少や、他の活動団体がいくつもあることなど、様々な要因があげられます。しかし、現状を受け止めつつも、その中で私たちがまず考えなければならない事は、私たちの活動や J A Y C E E として魅力があるのか、そして、魅力を広く相手に伝えられているかであります。J C 運動の拡大は、まずは同志を増やすことから始まります。一人でも多くの同志とともに新しい風を吹かせ、その風を会の活性化へと繋げます。力強い運動展開をするためには、会員拡大にメンバー全員で目標や課題を共有し、一丸となって取り組んでいくことが大切です。一人ひとりが会員拡大担当であるという当事者意識を持ち考動に移さなければ、組織力の強化には繋がりません。一人がひとりを誘えば会員数は倍になります。相手の共感を得るための機会づくりや各事業などへの参加を呼びかけ仲間を増やす機会を創出してまいります。真摯に相手と向き合い魅力を伝えながら、共に成長を実感しあえる真の仲間づくりの輪を全会員で広げてまいります。また、メンバーが集う重要な機会であり、情報共有の場である例会は、J A Y C E E としての志と青年会議所としての連帯感を生み出す機会であり、自己成長するチャンスを提供する場であります。事業を通じて、仲間と夢を語り合い、共に苦難を乗り越え共に笑い涙し、魅力ある J A Y C E E から、魅力ある組織へ繋げてまいります。

・地域益を追求する東北青年フォーラムの主管

本年度は、水沢青年会議所が創立以来、初めて東北青年フォーラムを主管致します。東北地区の運動を発信する最大の場として 1953 年から連綿と受け継がれてきたこの大会は、先輩たちとともに、この地域のため、LOM のため、会員一人ひとりの成長のために誘致され今に至ります。65 回目の開催となる東北青年フォーラムを、会員はもちろん地域住民・行政・他団体との連携を基軸に、「オール奥州」として新たな価値と可能性の追求から、人々が感じ得るさらなる地域愛を醸成し、力強く未来へ前進する大会を開催します。

また、開催することに意味を見出すのではなく、開催したことによってこの地域に何を生み出せるのかを創造していかなければなりません。フォーラム主管という絶好の機会を活かし、未来に繋がる地域益を創出する新たなまちづくりから、皆様の共感とともに多く

の注目を奥州に集め、私たちの愛するまちをより輝かせてまいります。

我々が愛する故郷この奥州には、斬新な事業構想力を持ち、関東大震災後の都市づくりを実行した偉人がおります。大胆な発想力や行動力で国づくりの礎となり、壮大なビジョンから「大風呂敷」と言われた後藤新平。この東北や私たちが住まうまちには、人口減少や高齢化問題、過疎化進行など、様々な社会問題が溢れております。私たちの故郷に息づく精神と誇りを受け継ぎ、大胆な発想力と行動力で、意識変革運動から新たな価値を創造していくことが必要です。地域益を追求した魅力溢れる大会から、水陸万頃と称えられる先人から受け継がれてきた地域資源や故郷への愛着と誇りとともに、会員一人ひとりの更なる資質向上と自己成長に繋げ、フォーラム開催のチャンスを余すことなく最大限に地域に還元してまいります。東北地区内76青年会議所の皆様を心温まるおもてなしをもって迎え入れるとともに、東北中のJCメンバーのネットワークを活かし、大会を通じ奥州を東北へ、さらに全国へ発信する絶好の機会と捉え、熱く強く奥州を発信してまいります。

・未来ビジョンの創造からまちの活性化

「あなたの力でこのまちの未来を変えることができます。」と言われ、即実行できる人間が何人いるでしょうか。自分たちが住み暮らすまちに対する関心の無さや、物事の大きさから自身を過小評価するあまり、「出来るわけがない」と答える人がほとんどだと思います。

私が想う魅力あるまちとは、まちに対する想いや魅力を語る事が出来る人が、多く住み暮らしているまちです。そして、多くの人々がまちづくりへ参画しているまちであります。「まちの魅力は何ですか？」と聞かれ、皆が同じ答えではなくとも、一人ひとりがまちの魅力に自信を持って語れることこそ、地域に誇りと愛着がある証であると言えます。

私たちが住み暮らすまちは、定住人口の減少やまちの衰退など、明るい兆しが見えない不透明な社会環境であるものの、地方創生を掲げられた社会である今、私たちは「自分たちのまちは自分たちで創る」という気概と覚悟のもとに、まちづくりへの情熱を持って考動し、私たちのまちを輝かせていかなければなりません。さらに、まちづくりの主役はそこに住み暮らす人々であり、多くの人々が参画する市民主体のまちづくりこそが、私たちが理想とする社会づくりであると考えます。まちづくりを通じて、人と人との繋がりによる広域連携からさらなる可能性を見出すとともに、それぞれの個性を認め高め合い、お互いに一緒の目標に向かう協働の意識がまちを創るコミュニティを活性化させます。まちに活気とさらなる賑わいを引き出すためには、地域活性への糸口に繋がる「ソーシャルデザイン」と呼ばれるこの地域をより良くする仕組みづくりが求められます。アンテナを高くして情報に耳を傾け、現状や問題は何かを分析し、魅力をさらに掘り起こすとともに、このまちに暮らす人々が地域をより良くする創造力を働かせながら、「活気に満ちた賑わいのあるまち」を創出することで、まちづくりへ参画する想いを高めてまいります。私たちが率先してまちづくりの情熱を持って考動していくことで、人々の関心が高まりその想いが

この地域に根付き、人々の中で大きな意識の変革を生み出していくものと考えます。

各々の活動や団体での取り組みの枠を超え、まち全体の活性化のために目的を共有し考動していくことが協働意識のあるまちづくりへと繋がります。広域的な視点を持ち、他団体の事業にも興味を持ってより積極的に参加することでまち全体の活性化への一助とするとともに、行政や関係諸団体とも連携を図りながら、共にまちを創ろうとするまちづくりの意識を強く結束し、共に考動できる社会を創造します。

・未来のまちを輝かせる青少年の育成事業

まちはそこに住み暮らす人々とともに発展します。人を形成するのは「こころ」であり、まちを形成するのは「人」であります。思いやりや感謝のこころなどの道德心が、人のこころを元気に明るく前向きにし、そして周りを笑顔にします。そんなこころが、人に豊かさを育み、ひとづくりへの基軸となります。この地域で生まれ育っている子ども達も近い将来、このまちを牽引する地域リーダーとなって私たちのまちを輝かせてもらいたいと願っております。「まちづくりはひとづくり」であるとともに、「夢づくり」でもあります。子ども達の健全な成長はこのまちの未来への希望であります。私たちは、教育者でも指導者でもありませんが、子ども達の成長を見守る地域の大人として、まちを愛するところを子ども達と共に考えていきたいと思えます。そして、子ども達の可能性を未来に繋げるために、自ら立てた夢や目標に向かって最後まで諦めずにチャレンジする勇気と考動力、そして地域の魅力に触れ合いながら、仲間と共に大きな達成感や喜びを分かち合う体験を通じ、心豊かな子ども達の「道德心」と「愛郷心」を育ててまいります。未来のまちづくりを担う子ども達の美しいこころを育み、こころ豊かなまちへと導く事業を展開します。

「人がまちを創り、まちが人を育てる」未来を担う青少年のこころの育成に力を注ぎ、夢と希望に満ち溢れる子ども達の笑顔のために、明るい未来へ繋いでまいります。

・地域に愛され続ける奥州インディアン旗野球大会の開催

奥州インディアン旗野球大会は、青少年の健全育成と地域コミュニティの活性に寄与する大会として、本年60回目を数える歴史深い大会です。大会初期は、横町町内会の青年有志から始まり、第7回大会から水沢青年会議所へ引き継がれました。現在は、少子化や野球離れ、多種多様な環境の変化もあり、全盛期の参加チームより半数以下までにチーム数が減少している現状があります。しかし、地域に根ざし愛され見守られながら、今日に至るまで大会を継続してこられたのは、諸先輩方を始めとする地域の人々の想いがこの大会に凝縮されているからであり、親子三代で大会に関わり合うことが出来る、他に類を見ない地域一体となった誇りある大会であるからだと思います。

私も子ども心に今でも記憶に残っている言葉があります。「練習は嘘をつかない。」「練習でやらない事は、本番では必ず出来ない。」「最後まであきらめずに、白球を追いかける。」

という教訓を受け、一つひとつにしっかりと取り組む必要性に気付かされました。この野球大会は当日だけの勝負に特化する大会ではありません。地域コミュニティの活性化と青少年の健全な心身の成長を願い開催されています。地域コミュニティを形成する地域の一人として、私たちはいつまでも応援し続けていかなければならないと考えます。子ども達が地域の人々と関わりや触れ合いとともに、スポーツを通じて常日頃の練習から子ども達自身が目標を見つけていくといった、試合に至るまでの大会のプロセスにこそ、奥州インディアン旗野球大会の存在価値があります。時代に合わせた運営方法を見直しながらも、次代を見据えた地域に必要とされるべき大会の姿を検証していくことも必要です。

第60回記念大会を開催し、心身ともに健やかな子ども達の成長を願い、地域に根ざし愛され続ける、地域コミュニティをより深める大会にします。私たちも子どもの頃に、この大会で得られた思い出があったように、これから参加する子ども達にも大きな夢や思い出に残る大会を企画し、無限の可能性を秘める子ども達に大きな夢を育ててまいります。

・創始の精神を基軸に伝統を未来へ繋ぐ

水沢青年会議所は、一関青年会議所のスポンサーのもと、1963年2月23日に全国で229番目に認証をされました。水沢青年会議所がこの地域に根差し活動できるのも、長きにわたり一年一年の積み重ねによって刻まれてきた伝統を、今に繋いで頂いた先輩諸兄のご尽力によるものであります。現役メンバーはその伝統と誇りをしっかりと受け継ぎ、本年55周年を迎える記念すべき今、今後を見据えてさらなる弾みを付けていく年にしてまいります。今日に至るまで連綿と受け継がれてきた創始の精神を基軸に、伝統を未来へ繋ぐとともに故郷への愛着を持ち、私たちが住み暮らす豊かな地域づくりへ考動する当事者として、さらなる未来へと繋げてまいります。青年会議所運動の無限の可能性にチャレンジする大きな一歩を今踏み出し、私たちが思い描く未来を創造します。

また、私たち水沢青年会議所と永きに渡り、姉妹JCとして共に友情を育んできた永和国際青年商會とは、姉妹締結30周年を迎える節目になります。長年に渡りお互いの文化に触れ、言葉だけでは通じ合えないお互いの価値観を認識し合うことは、国際社会に対するまちづくりへの新たな可能性が拓けるとともに、国際的な視野の広い人間力にも繋がります。また、人と人、人と国、JCとJAYCEEなど、いろいろな視点で交流を行うことで、お互いの文化や価値観なども尊重し合うことにも繋がり、自分自身を磨き上げる機会にもなります。創始の想いを胸に30年に渡る友好関係は、今日まで先輩方が築き上げられてきた国境を超えた友情の歴史であり、今後さらなる交流を深め、強い絆と多くの気づきを得て、お互いのまちの発展を共に目指します。

・情報発信の進化と推進

私たちのJC活動は、多くの市民の方々に理解を頂き、意識変革に繋がる運動の輪を広

げていくことが重要です。情報を伝え、それが理解されるまでには時間を要します。JC運動を推進していくためには、まずは理解して頂くための努力と工夫が必要です。どれだけ良い事業を展開したと自負しても、多くの人々に周知しても、参加いただければ発展的効果は生まれません。より運動を広めるためには、このまちに住まう方々に多くの賛同を頂くことが必要であり、共感が共感を生む、魅力ある効果的な情報発信が必要であります。固定概念に捉われない斬新な発想から様々な情報ツールを模索するとともに、現在活用している発信ツールにさらなる工夫と磨きをかけて、このまちに水沢青年会議所のファンを増やすため、今以上に広く継続的に魅力を発信します。

また、私たちが長年発行している広報誌「築く」は、会員との意識共有と情報共有、そして、市民の方々への周知として長い間発行してまいりました。語り継がれる記憶と後世に残す記録としてより内容の充実を図り、効果的な発信に繋げてまいります。あらゆる情報発信ツールを活用し、より多くの方々に私たちの運動に関心を持って頂くよう進めてまいります。また、情報発信は活動を共にする仲間を一人でも多く増やす機会と捉え、会員拡大にも積極的に繋げていきます。

・社会的責任ある運営の継続

単年度制であるがゆえに毎年組織が変わる青年会議所において、公益法人とする会の運営方法の会員の理解は不可欠であり、信用と透明性が重要です。公益法人へ移行してから6年が経過した今なお、運営や会計に携わる会員のみならず、一人ひとりが会の運営に対する当事者意識を持ち、社会的責任と信頼性を再認識しながら運営する必要があります。

また、青年会議所で学べる会計の知識や情報は、自分自身のスキルアップや仕事などにも活かすことも出来ます。定期的に各種セミナーや勉強会を実施し、会員の意識と知識向上を図るとともに、秩序ある運営の在り方を共有してまいります。

【終わりに】

「時間は有限、可能性は無限」青年会議所は、40歳までの限りある時間の中で、無限の可能性を信じ、志を同じうする仲間とともに果敢に挑戦し続けるかけがえのない時間であるからこそ尊さを感じます。時間は、全ての人にとって平等です。その時間をどう使い、どう活かすかは自分次第です。自身の成長のために今まで以上に時間を作り、お互いを研鑽し高め合い、かけがえのない時間を仲間とともに歩んでまいりましょう。

人がまちを創り、まちが人を育てる無限の連鎖により『明るい豊かな社会の実現』が近づくものと思います。過去と他人は変えることは出来ません。しかし、未来と自分を変えられます。情熱を持って誰かが考動を起こさなければ何も始まらないし、何も変わりません。変えるために変わり、誰かがではなく自分自身が率先し、熱く強く心をたぎらせていきましょう。愛する私たちのまちを輝かせるために。